

かじか

令和2年11月27日
岩国市立美川小学校

ポストコロナ時代で実現できること

教頭 岡崎 邦 恵

コロナ渦で始まった2020年は忘れられない年になりそうです。「中国でコロナウイルスによる肺炎が発生した」というニュースが流れたのは、ちょうど1年前です。コロナウイルスは瞬く間に全世界に広がり「三密回避」「ソーシャルディスタンス」「新しい生活様式」等々、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなり、私たちの生活は一変しました。学校も、これまでに全く前例がなかった全国一斉休校を経験しました。今年度から全面実施の新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の授業がスタートするはずでした。しかし、ポストコロナの今、子どもたちには「ソーシャルディスタンスを心がけて」「大声は控えて」・・・と、声をかけています。コロナ下においてどのように「共同学習」を行うかが課題です。

さて、11月の中旬に山口市のきらら浜で行われた「山口トライアルマラソン大会」に参加してきました。コロナ渦で様々な大会が中止や延期になる中、10ヶ月ぶりに開催される待ちに待った大会・・・のはずでした。結果は後ほど

大会はコロナウイルス感染拡大防止対策が至る所でとられており、今までの大会とは大きく様変わりしていました。いくつか紹介します。

①地域限定申し込み

大きい大会のほとんどは中止もしくはウェーブ開催になっています。小さい大会は開催されるものの参加人数は今までの半分以下になり、参加者も地域限定がほとんどです。今回参加した大会も700人ぐらいでした。

②念入りな健康チェックの受付

当然、検温して健康管理チェックシートを提出しました。今では当たり前ですね。

③開会式なしの新スタート

ゼッケン番号順に100人ずつのウェーブスタート（1分間隔）でした。今までは、目標タイムごとにスタートラインが決まっていたものの超密で隣の人とぶつかり合いながら我先にとスタートしていました。今回は、アスファルトの上に前後左右2m間隔のシール貼ってあり、そこに並びました。しっかりソーシャルディスタンスが取られていました。

④新エイドステーション（水分や捕食を提供するコーナー）

紙コップは廃止され、全て120mLのペットボトルでした。捕食も個包装のクッキーやチョコレートでパンやおむすび、バナナなどはありませんでした。（これが楽しみだったので残念）ペットボトルは衛生的だけれど全部は飲みきれません。飲み残した水は足にかけたりしたけれど、さすがにスポーツドリンクを浴びる勇氣は無くゴミ箱に・・・これはかなり心が痛みました。スタッフの方々ごめんなさい。

2021年はどんな年になるのでしょうか。朝の検温やマスクの着用、健康チェック表の記入は今では当たり前になりました。学校行事もやり方を見直し、感染防止措置をとりながら行ってきました。あるCMの言葉です。「コロナ後の世界は一体どうなる？それは、いつはじまる？」コロナ下だから仕方ないといろいろなことを諦めるのではなく、今できることを考え、未曾有の事態を乗り越えていきたいと思えます。

最後になりましたが、なんとか完走しました。「大会はまだまだ先だし」「熱中症が心配だし」とかなんとかで、練習をサボっていました。当日は、秋晴れの良い天気とは真逆のブルーな気分でスタートしました。案の定20km過ぎたあたりからふくらはぎが痛くなり始めました。「やばいやばい」「足がつる」頭の中は、「もうやめよう」「もう無理」という言葉ばかりがぐるぐる回っていました。走ることに「全集中！」しました。